誰もが参加しやすい環境づくりや仲間づくりに取り組む沼津市の団体「こころのまま」は、障害のある子供たちやアーティスト、高校生らが一緒になって、沼津港外港の矢板を使った壁画の共同制作を行った。

アーツカウンシルしずおか
ARTS COUNCIL SHIZUOKA

まちづくりに関し10年の実績を持つ「NPO法人クロスメディアしまだ」主催の「UNMANNED無人駅の芸術祭/大井川」。集落全体をアートの舞台とし、地域が主役の芸術祭は、全国的にも注目されている。

世界クラスの魅力的な資源にあふれる本県は、豊かな自然という舞台に、ヒト、モノ、文化、芸術などの花々が咲き誇る。それらは、とりもなおさず本県の「場の力」であり、明るい未来を創造する原動力だ。今回は、静岡県文化プログラムのレガシーとして設置された「アーツカウンシルしずおか」を紹介する。

全ての県民が表現者になる！

アーツカウンシルしずおかが目指す芸術文化によるイノベーション

ルしずおか」(以下ＡｒｔＳと表記)を昨年1月に設置した。目標は「すべての県民が表現者(つくり手)になる」だ。

一般的に芸術文化は、鑑賞者と表現者に分かれていると思われがちであり、鑑賞者は〝自分にはない何か〟を表現者に期待する。故に表現者は特別で遠い存在になりがちだが、ＡｒｔＳはその垣根を取り払い、「すべての県民が表現者(つくり手)になる」ことを目指す。同アーツカウンシル長の加藤種男氏は語る。「芸術文化は本来、お祭りに代表されるように、住民の生活に根付いたもの。地域のみんなでつくり、みんなで楽しむお祭りは、すべての人がつくり手となるアートプロジェクトであり、その交流と包摂こそが創造の源泉なのです」。

全ての産業を巻き込む可能性

ＡｒｔＳは、「すべての県民を表現者(つくり手)」として、社会のさまざまな分野でイノベーションが生まれる創造的な地域づくりへの寄与を目指し、地域資源の活用や、社会課題に対応した住民主体の創造的な取り組み〝アートプロジェクト〟の活性化を図っている。

芸術文化と社会をつなぐアートマネジメントの専門スタッフが中心となって行う主な事業は、①アートプロジェクトへの助成や伴走支援、先導的な事業の試行などを柱とする「住民主体のアートプロジェクト支援」、②企業・団体・大学・自治体とのネットワークづくりやアーティストなどとのマッチングを行う「コーディネート」、③地域資源の発掘などを行う「調査研究・政策提言」の3つだ。これらの事業は独立したものではなく、例えば、発掘→マッチング→支援といった流れを生み出すが、重要なのは、異業種や異分野をつなぐ媒体として芸術文化を活用することだ。つまりＡｒｔＳは、誰もが持つ創造力を引き出し、産業イノベーションや地域の活性化を促進する組織であり、文化イベントなどを実施するための団体ではない。したがってＡｒｔＳの活動は、芸術文化と親和性の高い観光、まちづくり、福祉、教育などの分野はもちろん、これまで関わりの薄かった土木、防災、医療等の分野をも巻き込む可能性がある。

しなやかな発想が許される空気を

元来、機能性や効率性を重んじる実業分野において、芸術文化は遠い存在であり、短期的視点で排除される場合もある。しかし、多様化が進む社会においては、一見無意味とも思える視点が革新をもたらすことがある。その意味で、無駄と思われがちなこと、遊びの要素などを、気後れなく提案し、試行できる空気感を醸成することも〝視点をかえる　発想をひらく〟を合言葉に掲げるＡｒｔＳの役割と言っていいだろう。実際に、食品会社から相談を受けてＡｒｔＳが紹介した県内在住の建築家が、同社の創業当時の歴史をモチーフにした直売所をデザインし、「弊社の次の100年にふさわしいデザイン」と喜ばれた、という事例も生まれている。

ＡｒｔＳでは、住民主体のアートプロジェクトの支援を事業の中核としながら、新たなアートプロジェクトの創出につなげようと「マイクロ・アート・ワーケーション」を実施している。アーティストを旅人として全国から受け入れ、地域住民と交流しながらワーケーションを行うこの取り組みは、地元での交流を支援するホスト16団体、旅人64人が参加し、アーティストならではの視点で地域活性化のヒントを探し当てている。一見、緩やかな企画であるが、日頃、出会うことのない住民とアーティストが交流するきっかけをつくり、地域の魅力発信や、関係人口の増加も期待されるなど、芸術文化と社会をつなぐＡｒｔＳの強みを活かした事業として、県内外から評価されている。

芸術文化は全てをつなぐ接着剤

豊かな自然、悠久の歴史、盛んな農林水産業に恵まれた本県には、芸術文化の源泉となる祭りが無数にある。自動車、楽器、医療機器などをはじめとする、ものづくり産業も国内トップクラスだ。つまり、芸術文化の芽は県内の至る所にあり、新しいマッチングの可能性も無尽蔵にある。その意味で、「すべての県民を表現者(つくり手)に」というＡｒｔＳの取り組みは、全県民の幸福に直結する。

芸術文化は、人と人、人と企業、人と地域などをつなぐ接着剤。それによってもたらされるさまざまなイノベーションは、全県民や全県域のみならず、社会や世界も活気づけるだろう。

世界クラスの魅力資源

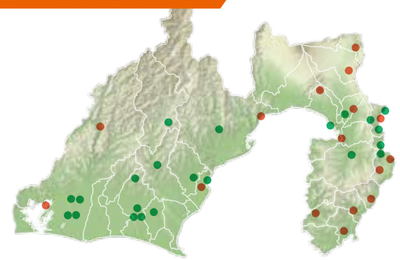
World-class
Natural and Cultural Assets

伊東市宇佐美の地域住民が主体となり10年間続いているUsamiフェス。2021年のフェス終了後には、関わってくれた中学生や、地域の人々への日頃のお礼として、アフターイベントも実施した。

浜松市浜北区小松地区のグループ「小松つながり醸造所」が開催したワークショップには近隣住民が参加し、同地区の歴史ある醤油蔵を舞台に100年前の街並みを粘土で再現した。

静岡の面白さの再発見を促す「シズオカオーケストラ」は、自分だけが持っている静岡の情報を他者と交換するイベント「しずおかのひみつ交換所」を静岡市内で開催した。

2021年度 実施団体の分布



ArtSが支援している22のアートプロジェクトの実施団体(緑)及びマイクロ・アート・ワーケーションのホスト16団体(橙)の分布。

アーツカウンシルしずおか
ARTS COUNCIL SHIZUOKA
〒422-8019
静岡市駿河区東静岡2-3-1
グランシップ1F
(公益財団法人静岡県文化財団内)
054-204-0059
054-288-8180
info@artscouncil-shizuoka.jp
https://artscouncil-shizuoka.jp
@artshizuoka